

福音を伝える難しさを語り合おう

2018年12月30日の年の瀬に、第4回福音ワークショップが開かれた。約80名の参加者と共に、英神父さまの講話の後、小グループに分かれて、福音を伝える難しさと、今後の使命について分かち合っ

まず英神父さまから「福音を伝える難しさは、個人の問題と社会の問題があるが、その難しさをわかったうえで、私たちはどうすれば良いか、地に足をつけて何ができるか考えましょう」との呼びかけがあった。日本での宣教の難しさは、分析が必要であり、1960年代からの教会の歴史を紐解きながら、ご自身もイエズス会に入会された1980年代の第3次宗教ブーム、1990年代の信仰の光が消えた冬の時代と、地下鉄サリン事件の決定的な影響を振り返られた。聖イグナチオ教会は、都市型の教会として例外的に繁栄しているが、司祭として働いて

いる。また、家族に福音を伝える難しさは、英神父さまも実感しており、お母さまに自分が出るラジオを聴いてもらったり、いろいろ試したが、クリスチャンにはならなかったお話を披露された。

また、インドのシスター

が来日して、インドで実践した宣教方法を日本で実践してみたがうまくいかず、実りのなさに耐えられなかったお話を、東日本大震災で多くのカトリック・プロテスタントのボランティアが支援に行ったが、信者になる人が増えた、という話は聞かない、という紹介もあった。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

現代社会において、忙しさは問題であり、信者であっても福音を伝える余裕がなく、自分や家族などの問題で、毎日必死な状態で

しかし、「神父さまから愛されて恵みをもたらしていると実感のある人は、誰かと分かち合いたくなる。難しさはあっても、神の恵みが働き、ひとりひとりの救いの体験がある」と結ばれ、マタイ10章16節とルカ10章3節を紹介された。

次回のワークショップ

2019年2月24日(日) 午後13時~15時 ヨセフホールにて行われます。

テーマは「使命を生きる」になりますが、詳しくはポスター・チラシをご覧ください。今年度最後のワークショップになりますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

ミッション2030 福音を伝えるグループ

<最後のまとめ>

- ・教皇フランシスコの来日が福音宣教のチャンスに。変なキリスト教の誤解を解く
- ・日本人は遠慮しすぎの面があり、変な人と思われたくない、という気持ちがある。しかし、イエスさまだって、変な人と思われていたのだから、謙遜と勇気を持つ
- ・福音宣教は難しく考えず、何も持っていないからこそ神に頼り、祈りながら。聖イグナチオ教会だけのためではなく、すべての人のために

おり、先祖への義理やお墓の問題がある。罪や懺悔への抵抗もみられ、教会自体も御利益を言わないため、抽象的過ぎるといった面があげられた。また、医療や福祉は、昔はキリスト教が中心だったが、今は行政やビジネスが中心となっており、キリスト教が見えにくくなっている要因であるとされた。

未信者からキリスト教のことを訊かれた際(「罪って何?」「十字架とは?」)、言葉にする難しさや、説明するスキルのなさもあげられた。

死や病気を前にした時は宣教しやすいが、その人なりの時期があるので待つ必要があること、共に祈る場を持ちながら、歩む姿勢が大事であることも確認された。

今後の宣教のチャンスとして、結婚式、葬儀、幼稚園教育、メディアの活用(修行僧の姿をテレビで見せるように、修道者の姿も見せられないか)といった意見も出された。

宣教の姿勢として、神父さまやシスターのように外に出て行く積極性と温かさ、信徒の心がけとして、いつもニコニコして「なぜこの人は?」と周りに思わせる等身大の姿、拒否反応があっても「私はクリスチャンです」と言える、めげない心も大切であることが伝えられた。

聖イグナチオ教会の良さの一つは、外国の方も多く居場所となっている。小さい教会や地方の信徒の方々を気づけることも、求められているのではないかと、という意見があった。